報道関係各位
展覧会のご案内

帰ってきた
寺山修司

百年たったら帰っておいで 百年たてばその意味わかる

画像①
『われに五月を』出版の頃、入院先の新宿・社会保険中央病院屋上にて
1957 年

世田谷文学館

東京都世田谷区南烏山 1-10-10

２０１３年２月２日(土)～３月３１日(日)

展覧会について

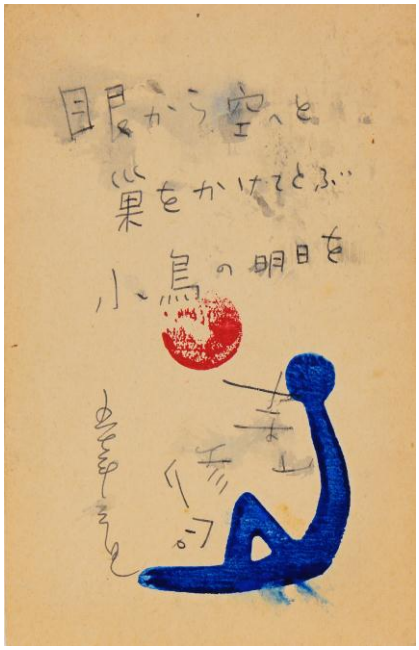
寺山修司（１９３５～１９８３）が去ってから３０年、戯曲の再演や映画上映など多くの関連活動がなされ、新しい世代を中心とした寺山ファンは、今も増え続けています。また、教科書にその作品が掲載されるなど、寺山文学は１０代の思春期の感性に、時代を越えて語り続けており、その作品の普遍性が新たな読者を獲得していくのです。

寺山修司は、１８歳で「短歌研究」新人賞を受賞。その後、「俳句」や「短歌」の定型の枠を乗り超えるように詩作を開始。歌謡曲の作詞や放送詩（ラジオ）へと活動ジャンルを広げました。３０歳を前後する１９６５年から１９６８年頃にかけては、世田谷区下馬に移り住み、演劇実験室「天井桟敷（てんじょうさじき）」を設立します。その後は、１０代から２０代にかけての創作活動の基盤であった俳句や短歌から抜け出し、長編小説や戯曲、評論など新たな執筆活動を交えながら、演劇や映画といった芸術ジャンルへと移行していくのです。

近年、これまで語られてきた、寺山修司の文学的成長過程の定説を覆す、新たな資料の発掘が続いています。展示資料には、初出品となる高校時代の貴重な書簡（俳句誌「牧羊神（ぼくようしん）」関連資料）や、中学時代の幻の文芸誌「白鳥」も含まれています。本展では、没後３０年の年に、彼の創作活動の原点ともいうべき青春時代をご紹介し、《ことばのひと―寺山修司》を再検証します。

みどころ

1 寺山修司の青春時代の書簡、約１５０通を一堂に展示。高校時代の恩師にあてた葉書や、１０代の俳句研究誌「牧羊神」の同人にあてた手紙など、<u>展覧会初出品となる貴重な書簡もご紹介します。</u>



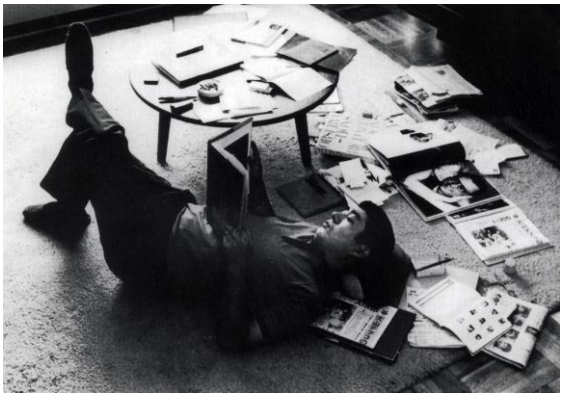
画像②
展覧会初出品資料
寺山修司　松井牧歌あて年賀状　1957 年　個人蔵
「眼から空へと　巣をかけてとぶ　小鳥の明日を
　五十七年元旦　寺山修司」
ネフローゼで新宿・社会保険中央病院に入院して、２年目の正月。この日、第１作品集『われに五月を』が刊行された。松井は、「牧羊神」同人の俳人。

2 **寺山修司の中学・高校時代の文学活動を、ガリ版刷の句集のほか、**
<u>新資料として発見された幻の文芸誌「白鳥」</u>（青森県近代文学館蔵）を通して
ご紹介します。

画像③
高校時代、草原にて
1951～1953 年頃

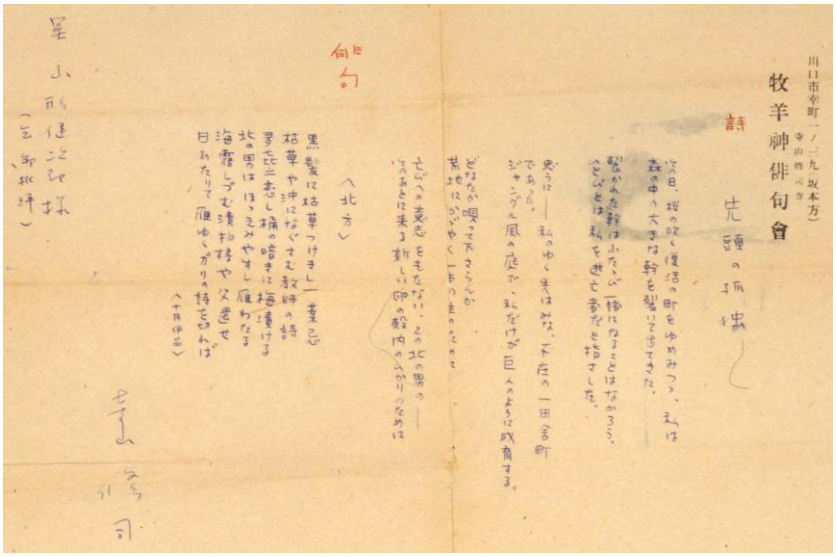
3 **オリジナル映像「寺山修司―天井桟敷の生まれたまち―」（九條今日子・横尾忠則出演）**
をご覧いただけます。

画像④
早稲田大学入学直　1954 年



画像⑤
世田谷区下馬にて　1967 年

4 **自筆資料、掲載誌、愛用品、関連資料等、展示資料約５００点（予定）で構成します。**



画像⑥
寺山修司　詩稿『先頭の孤独』ほか
1954 年 10 月頃
個人蔵

山形健次郎にあてた書簡で、「牧羊神」創刊の年に書かれたもの。
同人の山形に、批評を依頼している。

展示構成

１ 生い立ち―青森から世田谷まで

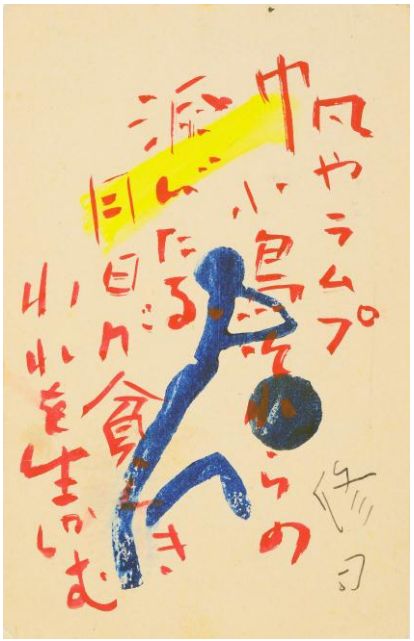
学級新聞に自作の俳句や詩を寄せるなど、文芸活動に熱中し始める中学時代の資料から、演劇実験室「天井桟敷」の最初期の資料に至るまで、貴重な資料を通じて寺山修司の足跡をたどります。

２ 俳句

寺山自ら「中学から高校へかけて、私の自己形成にもっとも大きい比重を占めていた」と語る、俳句。高校時代に友人らと創刊した俳句誌「山彦」や「牧羊神」などを中心に紹介します。

３ 短歌

弱冠１８歳で受賞した「短歌研究」新人賞の関連資料や、その後の中井英夫との交流を示す資料を中心に展示します。



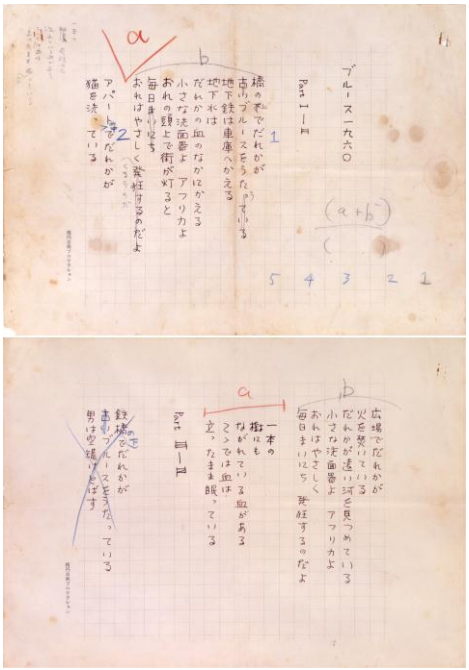
画像⑦
寺山修司　山形健次郎あて年賀状　1957 年
個人蔵
「帆やラムプ　小鳥それらの　滅びたる　月日が貧しき　われを生かしむ」
この日に刊行された作品集のあとがきには「いま僕の年齢は充分である。この作品集をそうした『生活を知覚できずに感傷していた』僕への別れとする」とある。山形は、「牧羊神」の同人。

４ 詩

短詩型文学でデビューした寺山が活動ジャンルを広げ、放送詩、歌謡曲の作詞、詩劇などに展開した作品を紹介します。

５ 寺山修司からの手紙

「牧羊神」同人（山形健次郎、松井牧歌）や、恩師（中野トク）にあてた書簡を中心に紹介します。



画像⑧
寺山修司『ブルース一九六〇』（複製原稿）
世田谷文学館蔵
「一本の　樹にも　ながれている血がある　こゝでは血は　立ったまま眠っている」
戯曲『血は立ったまま眠っている』(1960 年　浅利慶太演出　劇団四季）の劇中で歌われたブルースの歌詞。

高校時代の寺山修司

１、寺山修司です。
１、僕の自己紹介は今の所、二義的なものだと思います。
僕の俳句観と作品がそれをしてくれるでしょうから。
しかし一応、ガイネン的に云うならば十七才。五尺六寸。
レエモン・ラディゲやマックス・ジャコブの詩を愛し、中華そば
とコーヒーが好き。テレサ・ライトという女優を愛する
平凡ではない高校三年生。
早大を受験します。
はじめ東大でしたが、文学（poem と俳句）になやまされ
てついにこれはあきらめました。
（後略）

寺山修司　山形健次郎あて書簡　1953 年頃　より

十代の俳句研究誌「牧羊神」創刊に向けて、寺山は全国の高校生に、同人への参加を呼びかけた。
その自己紹介となる、書簡冒頭部分の抜粋。

教科書に掲載された寺山修司の短歌

列車にて遠く見ている向日葵は少年のふる帽子のごとし
（「中学生の国語二年」三省堂より）

わがシャツを干さん高さの向日葵は明日ひらくべし明日を信ぜん
（「中学校国語２」学校図書より）

海を知らぬ少女の前に麦藁帽のわれは両手をひろげていたり
（「高等学校現代文改訂版」三省堂より）

ころがりしカンカン帽を追うごとくふるさとの道駈けて帰らん
（「高等学校改訂版現代文」第一学習社より）

ふるさとの訛りなくせし友といてモカ珈琲はかくまでにがし
（「新版現代文」教育出版より）

マッチ擦るつかのま海に霧ふかし身捨つるほどの祖国はありや
（「現代文２」東京書籍より）

関連イベント

１子ども文学さんぽ
「やってみたい+たんけんしたいをかたちにしよう！
“テラヤマラソン”でオリエンテーリングだ！」

代々木公園でのオリエンテーリングです。公園を楽しく走りまわって、“テラヤマラソン”をしながらクイズに挑戦だ！

日　　時＝３月２日（土）１０：００～１６：３０
会　　場＝代々木公園ほか（世田谷文学館集合・解散）
講　　師＝こぺんなな（アーティスト）
対　　象＝小・中学生
定　　員＝事前申込１０名
参 加 費＝無料　※ただし別途交通費（小学生３００円・中学生５６０円）が必要です
申込締切＝２月９日（必着）

２「はじめての短歌・はじめての百人一首」

歌人の天野慶さんによる、小・中学生にむけたイベントです。はじめての人も安心！からだを大きく動かしながら短歌を楽しもう！

日　　時＝３月１６日（土）１０：３０～１５：００
会　　場＝世田谷文学館　講義室
講　　師＝天野慶（歌人）
対　　象＝小・中学生
定　　員＝事前申込２０名
参 加 費＝無料
申込締切＝３月２日（必着）

３映画『さらば箱舟』上映会

上映作品＝『さらば箱舟』（監督・脚本：寺山修司、脚本：岸田理生、映像：鈴木達夫、音楽：Ｊ．Ａ．シーザー、出演：山崎努、小川真由美、原田芳雄、高橋洋子、新高恵子、高橋ひとみ他、製作：劇団ひまわり、人力飛行機舎、ＡＴＧ）１９８４年公開、１２７分
※１６ｍｍフィルム上映
日　　時＝３月１７日（日）１４：００～１６：３０
対　　象＝一般
定　　員＝１５０名
参 加 費＝５００円

参加申込方法

１、２のイベントは各締切日までに、往復ハガキ（１イベントにつき１枚、連名申込可）にて、①イベント名②参加者全員の氏名・年齢・住所・電話番号③返信面に代表者の氏名・住所を明記のうえ、世田谷文学館「寺山修司展関連イベント」係までお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。結果は締切後、返信ハガキでお知らせします。３のイベントは事前申込不要です（当日１１：００から整理券を配布します）。

展覧会概要

展覧会名　帰ってきた 寺山修司

会　　期　２０１３年2月２日（土）～３月３１日（日）

会　　場　世田谷文学館　http://www.setabun.or.jp
東京都世田谷区南烏山１-１０-１０
電話 ０３（５３７４）９１１１

開館時間　午前１０時～午後６時（展覧会入場は午後５時３０分まで）

休 館 日　月曜日（ただし２月１１日は開館、翌１２日は休館）

交通案内　・京王線「芦花公園」駅南口より徒歩５分
・小田急線「千歳船橋」駅より京王バス（千歳烏山駅行）利用
「芦花恒春園」下車徒歩５分

入 場 料　一般７００（５６０）円
大学生５００（４００）円
高校生、６５歳以上、障害者手帳をお持ちの方３５０（２８０）円
中学生以下無料
＊（　）内は２０名以上の団体料金

主　　催　公益財団法人せたがや文化財団　世田谷文学館
三沢市寺山修司記念館
株式会社テラヤマ・ワールド

特別協力　九條今日子

協　　力　山形健次郎、松井和子、本多正一、本多道子、さっぽろギャラリー山の手、
青森県近代文学館、多摩美術大学、公益社団法人俳人協会・俳句文学館

後　　援　世田谷区、世田谷区教育委員会、三沢市教育委員会、寺山修司五月会

本展広報に関するお問い合わせ先
世田谷文学館学芸部　担当：大竹、佐野
〒157-0062　東京都世田谷区南烏山 1-10-10　TEL 03-5374-9111 / FAX 03-5374-9120

「帰ってきた 寺山修司」展 広報用画像貸出申込書

世田谷文学館学芸部　大竹・佐野　行
ＦＡＸ ０３-５３７４-９１２０

展覧会広報用として画像をご用意しています。ご希望の際は下記貸出条件をご確認のうえ、本申込書に必要事項をご記入いただき、ファックスにてお申し込みください。Ｅメールにて ＪＰＥＧデータで画像をお送りいたします。
なお、本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、掲載前に校正紙をお送りください。また、発行後、掲載誌を１部お送りください。

【広報用画像貸出条件】
◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
◆画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。
◆画像データは、ご使用後必ず消去してください。
◆画像データを第三者に渡すことを禁じます。
◆インターネット上で掲載する場合には、画像をコピーできないよう処置し、会期終了後はＷＥＢサイトから必ず削除してください。

雑誌名・番組名・WEB サイト名　：

媒体種別　：　新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ・ラジオ・WEB サイト

発売・放送・更新予定日　：

御社名　：

御担当者名　：

御住所　：

Ｅメールアドレス　：

電話番号　：　　**ＦＡＸ番号　：**

画像（ご希望の画像番号に印をつけてください。）

□画像１（『われに五月を』出版の頃）　**□画像２**（松井牧歌あて年賀状）　**□画像３**（高校時代）
□画像４（早稲田大学入学直後）　**□画像５**（世田谷区下馬にて）　**□画像６**（詩稿「先頭の孤独」ほか）
□画像７（山形健次郎あて年賀状）　**□画像８**（原稿『ブルース 1960』（複製））